

国際津波防災学会 第9回年会(学術集会・総会)
2025年11月05日 15:00-15:20
日本大学理工学部1号館

ぼうさいこくたい2025新潟参加報告

森田章一・轡田邦夫・市川洋
(「手引き」制作分科会)

1

ぼうさいこくたいの発足経緯と構成

2015年に防災推進国民会議が発足し、この発足を機に、内閣府、防災推進協議会とともに、国民の更なる防災意識向上を図るべく、平成28（2016）年に第1回を開催したのが始まり。

防災推進国民会議メンバー 一覧（全45団体）

経済界・労働組合

一般社団法人日本経済団体連合会
公益社団法人経済同友会
日本商工会議所
日本労働組合総連合会
公益社団法人日本青年会議所

地方六団体

全国知事会
全国市長会
他6団体

消防関係

公益財団法人日本消防協会
他2団体

教育界

公益社団法人日本PTA全国協議会
全日本中学校長会
全国高等学校長協会
全国都道府県教育委員会連合会
全国市町村教育委員会連合会
一般社団法人国立大学協会
日本私立大学団体連合会
一般社団法人公立大学協会
他4団体

学術界

日本学術会議
防災学術連携体

メディア

日本放送協会
一般社団法人日本民間放送連盟
一般社団法人日本新聞協会
一般社団法人日本雑誌協会

医療関係

公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本歯科医師会
他2団体

福祉関係

社会福祉法人全国社会福祉協議会
日本介護支援専門員協会
日本介護福祉士会

障害者団体

日本障害フォーラム（JDF）

女性団体

全国女性団体連絡協議会
全国女性会館協議会

上記以外

日本赤十字社
他3団体

令和7年4月現在

ぼうさいこくたいの歴史と当分科会の参加状況

「手引き」制作分科会は、2023年より参加。

ぼうさいこくたい開催地		参加者数	関連する地震災害	地震規模	津波規模
2016	東京大学	12,000			
2017	仙台	10,000	東日本大震災2011	M9.0	津波7.6～14.8m
2018	東京	12,000	関東大震災1923	M7.9推定	津波？
2019	名古屋	15,000	昭和東南海地震1944	M8.4	津波？
2020	広島	16,000			
2021	釜石	5,800	東日本大震災2011	M9.0	津波7.6～14.8m
2022	兵庫	12,000	阪神淡路大震災1995	M7.3	津波？
2023	横浜	16,000	関東大震災1923	M7.9推定	津波？
2024	熊本	17,000	熊本地震2016	M6.5	津波なし
2025	新潟	19,000	新潟地震1964	M7.5	津波1.8m



9月6日～7日
轡田、市川、森田 3名参加 三輪さん来場



ぼうさいこくたい 2025 in 新潟



語り合い 支え合い

～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

日程：2025年9月6日(土)・7日(日)

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

JR新潟駅から徒歩25分

バス15分

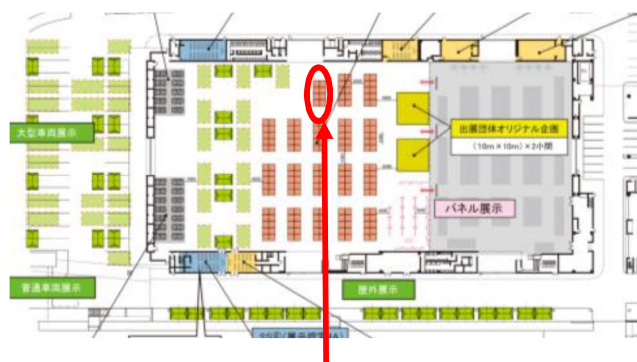
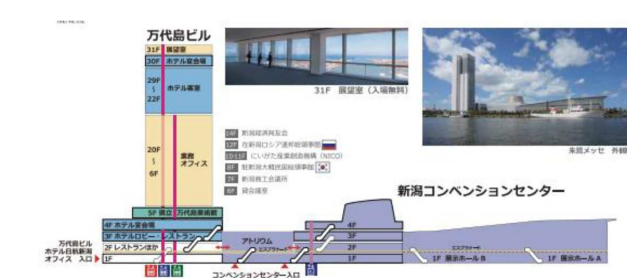


ぼうさいこくたい2025in 新潟

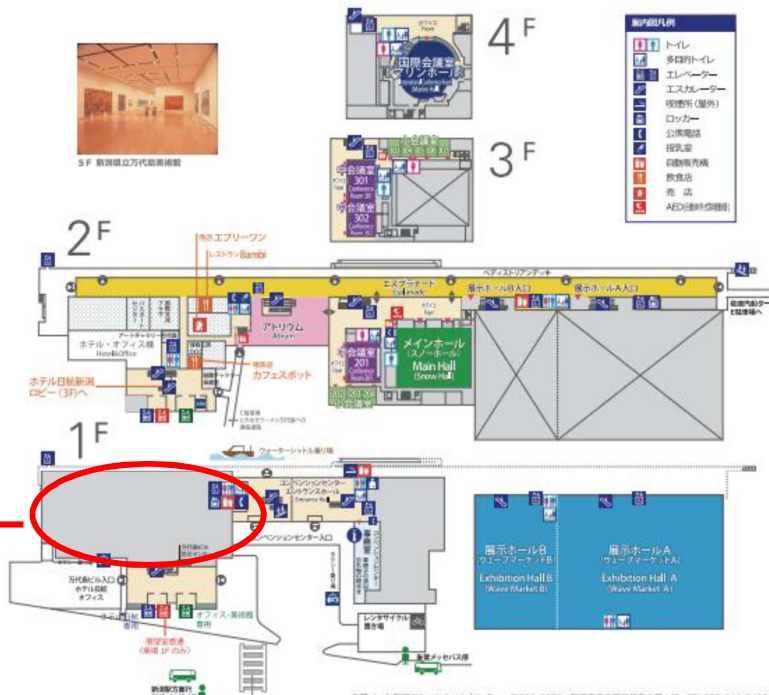
ブース展示 (B)

B-096 国際津波防災学会

「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」を制作中！



この一角



朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL.025-246-8400

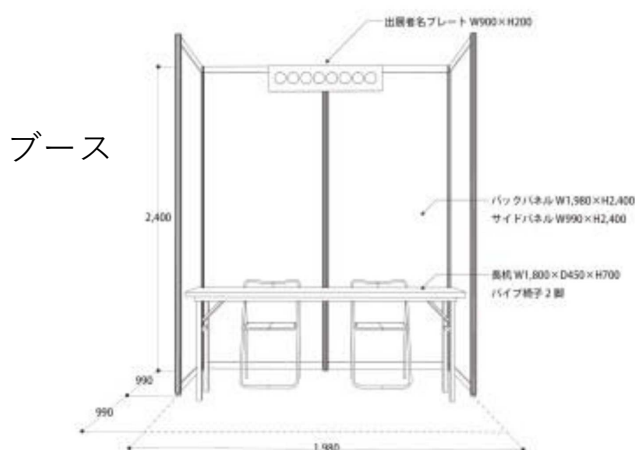


●出展タイプと出展数

	現地出展	オンライン	合計
セッション	52	10	62
ワークショップ	21	5	26
ブース展示	180	6	186
パネル展示	147	0	147
屋外展示（テント展示）	34	0	34
屋外展示（車両展示）	32	0	6
出展団体別オリジナル企画	6	0	6
合計	472	21	493

← 今年の出展方式

← 昨年は408



〈ブース基礎レイアウト〉

- ・ 出店者名プレート W900×H200
- ・ バックパネル W1,980×H2,400
- ・ サイドパネル W990×H2,400
- ・ 長机 W1,800×D450×H700

昨年同様ブース展示で出展した。
国際津波防災学会
「地区住民による津波防災対策計画立案
のための手引き」を制作中！

説明・対話した人数
6日（土）72名、7日（日）40名、計142名

来場者（19,000名）
来年の会場は鳥取（注：2016鳥取地震 M6.6）



180のブースが並ぶと壮観



用意したチラシ類 (1)

**地区住民による
津波防災対策計画立案
のための手引き**
暫定版原稿へのご意見を募集中！

<https://tsunami-tebiki.info/>
国際津波防災学会「地区住民による津波防災対策計画立案
のための手引き」制作分科会

名刺

A4 和文チラシ

SURVIVE
**私たちの海にも津波が来る
でも、私たちは生き残るのだ！**

地区津波防災の主役は住民であるという考えに基づいて、地区住民が自分たちの手で、地区の実情と将来計画を考慮した地区津波防災計画を準備しておく必要があります。その際、各種津波防災対策技術内容と計画立案に役立つ知識と情報を分かり易く示す「手引き」が必要です。

このように考えていた国際津波防災学会が津波防災対策計画分科会を2019年10月に立ち上げ、「手引き」の作成に着手しました。現在も継続しております。私たちのロゴは、上の津波防災計画の全体概念図を抽象化したものです。

メンバー募集中！
国際津波防災学会
「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」
制作分科会（略称：「手引き」制作分科会）

資料請求の「津波防災計画」の作成に際して、この概念図の作成、編集、印刷と配布をお願いします。

<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline/>

資料請求は必ずこのURLのQRコードから、入会申し込みのQRコードから行うこと。

表

現在取り組んでいる「手引き」の概要

本書は、地区の皆さんが行政の支援を受けながら、地区の津波防災対策計画を立案あるいは見直し作業をお手伝いすることを目指してあり、種々の津波防災対策を評価・選択する際の材料を提供しています。

また本書は、多くの地区のお手伝いするために、提供している情報は網羅的になっています。このため、本書を利用する際には、自分達に合う、何が必要なのかを考えながら、自分達の地区に必要な防災対策を選択していただく必要があります。

津波防災対策の種類

- 1) 高台居住と高台移転
- 2) 風化防止・災害伝承
- 3) 防堤堤
- 4) 津波の陸上進上を阻止するための施設・設備
- 5) 津波避難経路の確保と伝達システム
- 6) 高台避難と避難訓練
- 7) 個人防衛
- 8) その他（地区特有の事情に対応した対策）

津波発生時の地区住民の命を守るための対策
津波発生直後の地区住民の命をつなぐための対策

ウェブサイト「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」では、編集中の「手引き」の各章の暫定版原稿を逐次公開しています（<https://tsunami-tebiki.info/>）。

暫定版原稿についてのご意見をお待ちしています。記述の誤り、難解で不適切な表現、追加すべき事項など、お気づきの点がありましたら、サイトの「ご協力・ご意見」の受付フォームからご連絡ください。

裏

用意したチラシ類 (2)

津波防災に関心のある、研究者、行政関係者、企業やNPOなどの関係者、国際津波防災学会、分科会の活動に賛同される方、本分科会の活動に賛同される方、ご自身の地区の津波防災より関心が高いと思われる方、要し「津波防災対策計画」をお持ちの方の分科会への入会を歓迎します。メールによる情報、意見交換の場にも参加可能です。（年会費：正会員5000円、賛助会員2500円）

入会申し込みはこちら →

「手引き」制作資金調達のためのクラウドファンディングを25年1月～3月に実施し、48名の賛同者の方から計142万円の御支援を頂きました。温かい御支援に感謝いたします。

「手引き」制作分科会役員一同

国際津波防災学会
「地区住民による津波防災対策計画立案のための手引き」制作分科会

幹事 島田新一 国際システム研究所代表 (090-6039-3748)
幹事 徳田明夫 東海大学非常災害対策センター代表 (050-5292-0519)
世話役 市川洋 元海軍研究開発機構上級研究員
顧問 徳田一 日本大学名誉教授

Webサイトはこちら →
<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline/>

デザイン：株式会社MDILL

つかみ本
裏表紙のCF案内を隠す
支援お礼の文章

英文チラシ

SURVIVE
Tsunami will come to our oceans too, but we will survive.

Based on the idea that local residents play a key role in local tsunami disaster prevention, local residents themselves must prepare a local tsunami disaster prevention plan in advance that takes into account the current situation and future plans of the local district. At that time, "Guidelines" are needed those clearly explain the contents of various tsunami disaster prevention measures and the knowledge and information those will be useful in surviving. With these above in mind, a group of volunteer members of the International Tsunami Disaster Prevention Society (ITDPS) Subcommittee for production of "Guidelines for Tsunami Disaster Prevention Planning by Local Residents" (Abbreviated name: Subcommittee for production of "Guidelines")

Recruiting members!

Our subcommittee is now recruiting members who are interested in tsunami disaster prevention and who can contribute to the production of "Guidelines". Please download our subcommittee's web page onto your mobile phone. You will get useful informations. Please use the QR code on the left to access the web page, and the QR code on the right to apply for membership.

<https://sites.google.com/view/tsunami-guideline/>

表

ステッカー大小



裏

Overview of the "Guidelines" currently being worked on

This book is intended to assist local residents, with the support of the local government, in drafting or reviewing their local tsunami disaster prevention plans, and provides materials for evaluating and selecting various tsunami disaster prevention measures.

This book also provides comprehensive information to help many areas, so when using it, please think about what you need right now and choose the disaster prevention measures that are necessary for your district.

Types of tsunami disaster prevention measures

- 1) Living on high ground and relocating to high ground
- 2) Preventing fading and passing on disaster information
- 3) Tide embankment
- 4) Facilities and equipment to prevent tsunamis from running up onto land
- 5) Facilities and equipment to reduce damage from tsunamis
- 6) Tsunami evacuation warning preparation system
- 7) Evacuation to higher ground and evacuation trainings
- 8) Measures to protect the lives of local residents when a tsunami strikes
- 9) Measures to save the lives of local residents immediately after the tsunami disaster
- 10) Personal defense methods
- 11) Recovery and reconstruction plans
- 12) Other measures to address specific circumstances in your district

The website "Guidelines for Local Residents to Plan Tsunami Disaster Preparedness" is currently publishing preliminary manuscript of each section of the "Guidelines" as it is being edited. (<https://tsunami-tebiki.info/>) We welcome your comments on the preliminary manuscript. If you notice any errors in the description, difficult or inappropriate expressions, or anything that should be added, please feel free to let us know using the "Advice, Comments, etc. Reaction Form" on the site.

まとめ

目標とした「手引き」制作の趣旨と完成イメージを、来訪者に理解して貰うことは達成された。

特に、1日目夕方にホールにて各団体に30秒の活動紹介の場があったが、その紹介を聞いて2日目に来訪された方が複数あり、専門分野の執筆依頼や、コラムの提供に繋げる事が出来た。

国際津波防災学会の活動であることも併せて紹介し、理解を深める事が出来た。

会計報告

費目	出金	備考
交通費宿泊費	114,560	静岡・神奈川・東京から新潟 新幹線利用。2泊X3名。
印刷費	23,600	ポスターA0X2枚、和文ちらしA4X150 枚、英文チラシA4X100,ステッカー大 100, 小150
デザイン料	12,000	ポスター修正、英文チラシ新規デザイン.
送金手数料	660	
計	150,820	